

※ 解答にあたっては、句読点などの符号も一字分として数えること。

【一】次の各文の——部のカタカナをそれぞれ漢字に改めなさい。

- 1 演奏会でシキ者をつとめる。
- 2 母の言葉がノウリをかすめた。
- 3 北海道は食材のホウコだ。
- 4 政府にハンキをひるがえす。
- 5 オリンピックのセイカリレー。
- 6 イップクの清涼剤のような風景。
- 7 生鮮食品をレイゾウする。
- 8 勇気をフルって発言した。
- 9 つり糸をタラして魚を待つ。
- 10 マフラーを首にマいて外出する。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①先頃、山地域で外来種の実メジヨオンやセイヨウタンポポが勢力を伸ばしているの、在来種(ニホンタンポポ)の保全のために多くの子どもたちとともに、それらの外来種の抜き取り作業が行われているというニュースを聞きました。そのとき、②私は複雑な心境になりました。なぜなら、どちらの植物種も、私にとって子どものときからとても身近な存在であり、親しみを持つ対象でもありました。すると、そのことは、その植物たちが人々の生活には特に大きな問題を起こしていなかったといえるのではないのでしょうか。当時、私たち子どもは、セイヨウタンポポの花茎(注・葉をつけないで花だけをつける茎)で首輪を作り、また実メジヨオンが生い茂る草原で虫取りに興じていました。今、これらの植物は、私にとって懐かしい子ども時代の景色の重要な構成要素になっています。そうすると、日本人の文化の一部になっているといえるかもしれません。そのような植物が、在来種を守るために駆除されているようすを想像すると、③が痛みます。このような事例をどのように考えるか、それに対する考え方は人によって大きく異なるでしょう。難しい課題だと思えます。

ただし、この実メジヨオンとセイヨウタンポポの「駆除大作戦」には、もつと気になることがあります。それは子どもたちを使ったイベントだということです。主催者は、そのイベントに、子どもに対する環境教育という意味を持たせているのでしょうか。そのため、この「駆除大作戦」を始める際に、「セイヨウタンポポは外来種で、在来種のニホンタンポポの生存を脅かしているの、駆除しなければならぬのです」という説明をしているのでしょうか。それは、「人間が生物種を絶滅させてはならない」という考えに基づけば、筋の通ったことかもしれません。

しかし、私はそのイベントが抱える問題が気になりました。それは、子どもたちが④「セイヨウタンポポは退治する植物」、「ニホンタンポポは保護する植物」と教えられていることです。セイヨウタンポポとニホンタンポポは、どちらも生物進化の過程で生まれてきた生物種であり、人間がつくったものではありません。その意味では地球上で同等の生きる権利を持った生物種です。その生物たちを、イベントの主催者は、子どもたちに「悪者」と「善者」に色分けさせているのです。人間の命や生活に悪影響を与える生物、例えば「天然痘(注・伝染病の一種)」ならば、それは人間の生存に関わる

ことです。人間がその生物種を「悪者」と呼んでもよいでしょう。はたして、セイヨウタンポポは、私たちの暮らしに大きな悪影響を与えているのでしょうか。

もう一つ「外来種駆除大作戦」について危惧していること(注・心配し、おそれていること)があります。それは、⑤その行為が生態系のバランスを大きく変えてしまう可能性があるのではないかと、いうことです。

例えば、その地で広く分布しているセイヨウタンポポのほとんどを駆除すると、その空いた場所に全く異なる植物が入ってきて、結局ニホンタンポポは分布を拡大することができないかもしれないと思えるからです。それどころか、セイヨウタンポポの後を継いで侵入した植物が、新たな問題生物となる可能性も否定できないように思えます。

さらに考えるべきことと思うのは、セイヨウタンポポが日本に侵入してからすでに一〇〇年以上たっているの、その長い時間の間に、このタンポポが他の在来種の生物種と強い関わりを持つようになっているかもしれないということです。具体的な例を挙げることはできませんが、例えばセイヨウタンポポを主要な餌とするようになった動物や、土壌の中にセイヨウタンポポに依存した微生物群集が、つくられているかもしれません。そして、それらの生物にとっては、ニホンタンポポがセイヨウタンポポの代役にはならないとしたらどうでしょう。すると、ある地域からセイヨウタンポポを駆除する行為は、現在そこにつくられている生態系を強く攪乱すること(注・乱し、こわすこと)になるでしょう。

生態系はあまたの生物によって構成されており、それぞれの生物が他の生物と相互に関わりを持ちながら暮らしています。その相互関係のはたらきで、それぞれの生物種の個体数は、ある程度変動しながら全体としてバランスがとれているのです。例えば、ある場所で、一種のネズミが豊富にいる餌生物を食べて急速に増えると、餌生物が減り始めます。

F

A

B

C

D

E

ただし、その生き物たちのバランスは、環境の変化に伴って変わります。例えば、乾燥化や酸性雨などによって森林が後退し始めると、木々の間で隠れるように暮らしていたネズミが、捕食者に見つかりやすくなります。それによって個体数を減らしますが、森林の後退がある程度で止まると、その森林が捕食者の目から隠すことのできるネズミの数だけ、ネズミが生き残れるようになります。この数は、以前の森に暮らしていたネズミの数よりも少ないのですが、それでも何とか個体群を維持できるようになるでしょう。すると、森林の衰退が、ネズミと捕食者を新たなバランスの下で共存させるようになったといえます。この場合、森林の存在がネズミと捕食者にとつての重要な環境因子となったのです。

ところで、この森林の衰退を見て、生態系が⑥と表現する人がいるでしょう。しかし、私は、これは「生態系が⑦」といふべきと考えます。なぜなら、そこにはあいかわらずたくさんの生物が暮らしているのです。生物がいれば、そこには生物間の相互関係がつくられており、それを介して物質が循環しているからです。生態系は環境の変化に柔軟に対応して姿を変えます。人間は他の

生物と同様に、まぎれもない生態系の一員です。またそれと同時に、人間の存在は、生態系に影響を及ぼす環境因子でもあります。したがって、人間による活発な活動は、今の生態系につくられているバランスを大きく変化させることになります。そうすると、変化した生態系の中に人間自身の居場所がなくなるかもしれません。そうならないようにするために、私たちは、生態系のバランスを常に意識することが必要でしょう。そして、多くの人が、生物種や生態系を客観的に見て、生態系が維持されているしくみを理解することが求められているのです。

(花里孝幸『生態系は誰のため?』)

問1 部①「先頃」は、どの部分にかかっていますか。次から選び、記号で答えなさい。

ア 勢力を伸ばしているの イ 在来種の保全のために
ウ 抜き取り作業が行われている エ ニュースを聞きました
問2 部②「私は複雑な心境になりました」とありますが、そう言った理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 大人にとって子どもの時から身近だった植物種を、何も知らない子どもたちに駆除させているから。

イ 生物進化の過程で生まれてきた植物種は、どれも人間の暮らしに大きな影響を与えているから。

ウ 駆除される植物種は在来種ではないものの、今や日本人の文化の一部となっているから。

エ 人間が生態系のバランスを大きく変えることは、全く異なる植物種の侵入を招くことになるから。

問3 ③に入る漢字一字を答えなさい。

問4 部④「セイヨウタンポポは退治する植物」と教えることは、なぜ問題なのですか。その理由を「セイヨウタンポポは」に続けて、四十文字以上五十文字以内で答えなさい。

問5 部⑤「その行為が生態系のバランスを大きく変えてしまう可能性がある」とありますが、筆者はその具体例としてどのようなことを挙げていますか。五十文字前後で二つ答えなさい。

問6 次のア・カの文は、A F に入ります。それぞれ空らんに入る適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 餌不足と捕食者によってネズミが減ると、次には餌生物の数が回復し始めます

イ すると、その餌不足は、ネズミの個体数の増加を抑えます
ウ また、餌となるネズミが減ったためキツネは新たな餌を求めて他の場所に移動します

エ その結果、ネズミは再び個体数を増やします
オ その結果、捕食者に食べられて死亡するネズミが増えます
カ また、ネズミの増加はキツネなどの捕食者を呼ぶことにもなります

問7 ⑥ ⑦ に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ⑥ 変化した ⑦ 破壊された
イ ⑥ 破壊された ⑦ 変化した
ウ ⑥ 後退した ⑦ 構成された
エ ⑥ 構成された ⑦ 後退した

問8 本文における筆者の考えとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 私たちは、大きく変化する生態系の中で、人間自身の居場所がなくならないようにすることを最優先の課題として、現状の生態系の維持をめざさなければならぬ。

イ 私たちは、生物種の生存に関して、人間もふくめた生物種がさまざまな相互関係によって成立し、共存していることを認識しなければならぬ。

ウ 私たちは、生物間の相互関係を大切にし、生態系のバランスをよりよい形で創造していくことを、常に心がけるようにしなければならぬ。

エ 私たちは、人間が生態系を構成する一員であることを自覚し、他の動植物と共存共栄して生きていく道を探し続けなければならぬ。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

陽が西に傾いて、建物の影が長く落ち、そろそろ夕暮れの気配が漂うという時刻、見知らぬ街に降り立つというのは、それなりに風情があるものの、やはり心細さが先に立つものだ。しかも、それが海外となると、ことさらである。

① 韓国・金浦空港からその街へ向かうだけでも、すんなりというわけにはいかなかった。空港内で向こうから声をかけてきた人が、私たちが希望しているのとは違うバス停を教えたからだ。こちらは当てずっぽうに毛が生えた程度しかハングル(注・朝鮮語を書き表すための表音文字)が読めない。いざバスに乗り込もうという段になって、改めて運転士に行き先を確認したからよかったようなものの、そうでなければ完全に迷子になっていた。その結果、時間をロスしたのはもちろんのこと、ちよつと不快な気分にもなった。

「そういえば目つきも悪かったし、胡散臭い顔つきだったもんね」

「最初からだます気だったんだ」

腹立ち紛れに声をかけてきた男性の悪口を言いながら、先ほどとはまったく違うバス停まで移動して、寒風の中で時間を過ごし、ようやくやって来た全州行き的高速バスに乗り込んだのだ。終点まではおよそ三時間半。途中のサービスエリアで一度トイレ休憩を挟みつつ、バスは午後の陽射しの中を南へとひた走った。

座席の三列ほど前方に、若い男性が一人で乗っていた。バスに乗り込んだときには、確か韓国人らしく見えたのだが、何気なく後ろから眺めると、日本のスポーツ新聞を広げて読んでいた。もともとそれほど正確に見分けられる目も持っていないから、ああ、日本人だったのかと思った。

日本よりも西に位置する韓国は、日暮れの時刻も東京に比べて一時間前後は遅い。その陽が西に傾き始めた頃、私たちは全州に着いたのだ。ここでバスを乗り継がなければならぬ。ところが私たちの乗っていたバスは、バスターミナルとはまるで異なる、大通りに面して建つてもいらない古いホテルの前に止まって、そこが終点ということだった。さほど多くなかった乗客は、バスから降りるなり、② 瞬く間に四方に散っていた。

「とりあえず、ホテルのフロントでタクシーを呼んでもらおう」
友人と相談した上で歩き始めたが、そのホテルというのが妙に高

い堀に囲まれた建物で、入口さえ容易に見つからない。コロコロと荷物を引っ張りながら右へ左へと歩き回っているときだった。「③」
こちらへ行かれるんですか」

韓国訛りの日本語だ。振り向くと、長身の青年がこちらを見ている。

「光州なんです」

私たちの答えに、彼は「光州？」と首を傾げた。

「それなら、光州行きのバスに乗ればよかつたんじゃないんですか？」

「私たちは金浦空港から乗ったものですから、光州行きはなくて」

青年は「A」、ここから光州に向かうにはバスターミナルまで

行く必要があると教えてくれた。

「タクシーで行っても十分かそこいらだろうと思います。多分、基本料金が、それより少し出るくらい」

そのとき、その青年が私の数列前に座っていた人だと気がついた。

彼の隣には六十過ぎくらいに見える女性が立っている。一見して彼の母親だと分かるが、それにしても髪には強めのパーマをあてて、ずい分としつかりした化粧をしている女性だった。口紅の鮮やかなピンクが目に残きつくほどだ。彼女は黙って息子と私たちのやり取りを見守っている。

「てつきり日本人かと思いました。だって、日本語の新聞を読んでいたでしょう？」

「ああ、そうですね」

「日本語、お上手なんです」

「実は僕、ずっと日本に留学していたんです。それで今日、戻ってきたところですよ」

ああ、そういうことかと思った。それで母親が迎えに来ていたのだ。久しぶりに会う息子のために、母親はいつになく気合を入れて、一生懸命にお洒落をしたきたのに違いない。こちらと目が合う度に、彼女は少し恥ずかしげな表情で、手振りだけで「どうぞ、この子を使つてやって」という仕草を見せた。

その後、青年は私たちのために通りかかったタクシーを呼び止め、運転手に行き先を告げて、さらに荷物の積み込みまで手伝ってくれた。その間、彼の母親は終始「B」。しばらく会わない間に見事な日本語を操るようになり、そうして見知らぬ旅人に親切にしている我が子が誇らしくてならない様子だ。

「ありがとう。本当に助かりました」

夕暮れが迫る見知らぬ街の、右も左も分らない片隅で、私たちは長身の青年を見上げた。

「④」こんなに親切にしてください」

すると青年はにっこり笑いながら「僕も」と口を開いた。「日本に行ったとき、同じように親切にしてもらいましたから」

彼は最後に「気をつけて」と言いながら、タクシーのドアを閉めてくれた。その向こうで、濃い口紅の母親も、にこにこうれしうに手を振っていた。

ああ、⑤ こういうものだと思った。

⑥ きっと本人は忘れているに違いない。だがとにかく、ある日一人の外国人に、何気なく手をさしのべてくれた誰かのお蔭で、今こうして不安な旅人が救われた。見知らぬその人のお蔭で、私たちの旅は幸先の良いものに変わり、ほんのわずかな時間立ち寄っただけの街の印象までが、いいものになった。それが、人と人とのつながりというものだ。どこでどう巡ってくるか分からない。だから面白くもあり、怖ろしくもあるのである。(乃南アサ「見知らぬ街で」)

りというものだ。どこでどう巡ってくるか分からない。だから面白くもあり、怖ろしくもあるのである。(乃南アサ「見知らぬ街で」)

問1 部①「韓国・金浦空港からその街へ向かうだけでも、すんなりというわけにはいかなかった」とありますが、「すんなり」というわけにはいかなかった」ことに対する「私たち」の思いが最もよく表れている一文を本文中から探し、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

問2 部「なり」と同じ意味で用いられているものを次から選

び、記号で答えなさい。

ア 休暇中は勉強するなり運動するなりしなさい。

イ どこへなりとも行つてくるがよい。

ウ その犬は僕を見るなり吠えたてた。

エ 他人の言いなりになつてはいけない。

問3 部②「瞬く間に四方に散つていた」という表現からどのようなことがうかがえますか。最も適当なものを次から選

び、記号で答えなさい。

ア 人々がわれ先に帰宅してしまうほどの遅い時刻。

イ 周囲を眺める余裕もないほどの旅人たちの疲労。

ウ 夕暮れなので様子もよく見えない街のさびしさ。

エ 自分たちだけが取り残された寒々とした気持ち。

問4 部③「どちらへ行かれるんですか」と青年が「私たち」に声をかけた背景には、青年のどのような体験があつたのですか。三十文字以内で答えなさい。

問5 部Aに入る言葉として最も適当なものを次から選

び、記号で答えなさい。

ア 「おや」と不思議そうに首を傾げたまま

イ 「ああ」と納得したようにうなずいたうえで

ウ 「はあ」と日本語が聞き取れなかった様子で

エ 「ふむ」とどうしたらよいかわからず

問6 部Bに入る言葉として最も適当なものを次から選

び、記号で答えなさい。

ア うれしそうな表情で、息子を見守っている

イ 不安そうな表情で、成り行きを見つめている

ウ はにかんだ表情で、こちらをうかがっている

エ 楽しげな表情で、すべてを息子に任せきっている

問7 部④「こんなに親切にしてください」とありますが、ここでの「私たち」の思いを表すことわざとして最も適当なものを次から選

び、記号で答えなさい。

ア 情けは人のためならず

イ 縁は異なもの味なもの

エ 縁は異なもの味なもの

問8 部⑤「こういうものだ」とは、どういうことを説明した次の文の空らんにあてはまる、それぞれ十五字前後の言葉を本文中から探し、ぬき出して答えなさい。

本文から探し、ぬき出して答えなさい。

の が

問9 部⑥「きっと本人は忘れているに違いない」とありますが、何を忘れていているのですか。「何」に当たる内容を二十文字以内で答えなさい。

6	1
7	2
8	3
9	4
10	5

問 1

問 2

問 3

[illegible]

問 5

[illegible]

問 6	A		B		C		D		E		F	
問 7												
問 8												

問 1

問 2

問 3

問 4

問 5

問 6

問 7

[illegible][illegible]

問 9

右のらんには
何も書かない
こと

I	H	G	F	E	D	C	B	A